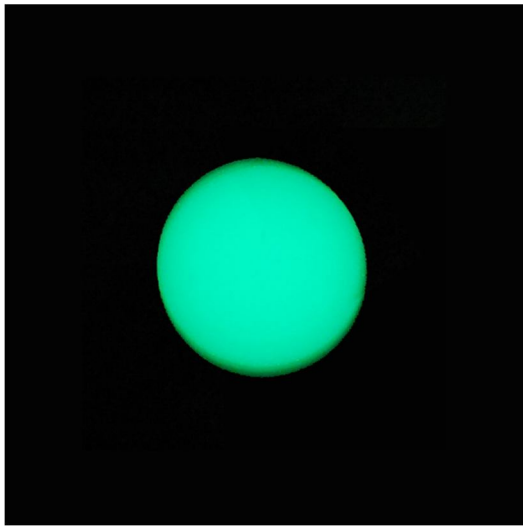


## 「大学の日時計 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

太陽の動き(日周運動)を実感するには、太陽(光球)の動きそのものを観察するのが一番良い。しかし、光球は非常に明るく、肉眼で一瞬でも見れば、網膜が火傷する恐れがある。遮光板を使えば、光球を安全に観察できる(下写真)。しかし、太陽の動きは「地上の風景との比較」ではじめて実感することができる。遮光板は地上の風景を完全に見えなくしてしまうので、太陽の動きを観察したことにはならない。

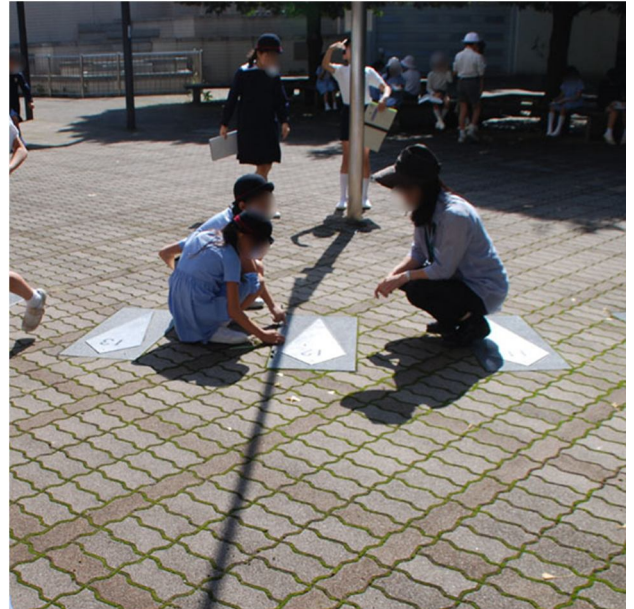


太陽に高層雲などの一様な厚さの雲が架かると、肉眼でも見えそうなくらいに減光されることがある。

(下写真)しかしこれは稀な現象である。また、いつ雲が晴れてしまうかわからず、この状態でも太陽を直接観察することは危険を伴うので、してはいけない。



太陽の動きを実感させるには、やはり教科書に載っているように、太陽の影を観察させる以外に、適当な方法はなさそうだ。



幸い本校のあり大学構内には、常設の大型日時計があって、毎年3年生の学習に大いに役立っている。日時計は理学部の近くにあり、子どもたちは「日時計広場」と呼んでいる。



太陽の影がつくる長い直線の影で、なぜ現在時刻がわかるのか・・・最初子どもたちは、そのことにはあまり興味がないようだった。しかし、影の周囲に腰を下ろして、じっと動かずに影を観察する姿に、私はなぜか心を動かされた。「この影、ホントに動いてるの?」「何か置いて確かめてみよう!」ここが「探究の入口」である。子どもたちはどんな方法を試すだろうか?